夏休み特別おはなし会２０１４　テーマ｢木｣　台本

オープニング　ソプラノリコーダーで｢大きな栗の木の下で｣を演奏。

こんにちは，ホンノハシです。

今日は｢木｣をテーマに皆さんに本を紹介します。

ホワイトボードに書きながら

木を漢字で書くと…ですね。そして，これは｢林｣。これは｢森｣です。

木は「いっぽん，にほん…｣と数えますが，｢林｣や｢森｣の数え方を知っていますか？

参加者にしばらく自由に口々に発言してもらう。

｢林｣や｢森｣の数え方はこの***｢数え方と単位の本④　自然と植物｣***に書いてあります。

１２ページを見せながら

｢林」は「ひとむら」，「森」は「ひとつ」と数えるそうです。

ちょっと読んでみます。

解説の部分を読む。

「木」の生え方によって数え方が変わるなんて面白いですね。

それから，私達の周りには「木」から作られたものがたくさんあります。

木が切り倒されて形が変わっていくと，呼び方も変わり，数え方も変わります。

３０，３１ページを見せながら

切り倒したあとの切り株は「ひとかぶ」，切り倒した丸太は「いっぽん」，板にすると「いちまい」，材木になると「いっぽん」，薪になると「ひとたば」，イスになると「いっきゃく」，などといろいろ変わっていくそうです。

この本には「木」の他の物の数え方について，絵と説明文で書かれています。読んでみてください。

さて，「木」は板になると「いちまい，にまい」と数えるという話を今しました。ではここで，この一枚の板についてクイズを出したいと思います。

板を見せる。

この板から，あるものができます。さて，それはなんでしょうか？

参加者にしばらく自由に口々に発言してもらう。

ヒントはこの板ともう一枚の板を合わせると，あるものが全部で９本できます。

参加者にしばらく自由に口々に発言してもらう。

答は…

本の表紙を見せながら

鉛筆です。次に紹介する本は***「いっぽんの鉛筆のむこうに」***です。

この木の板から，どうやって鉛筆になるのかはここに書いてあります。

２８，２９ページを見せる。

この本を読むと，木から鉛筆が作られて皆さんの手元に届くまで，とても大勢の人が関わっていることがわかります。是非，読んでみてください。

そして，多くの人が関わっている鉛筆，みなさん大事に使って下さい。そして，いろいろなものをかいてください。

では，紙を一枚づつ，鉛筆を一本づつ配りますので，「木」を書いてみてください。鉛筆は終わったら後で返して下さいね。

紙と鉛筆を配ってもらう。

２，３分時間をとって参加者に木を書いてもらう。

皆さん，どんな木がかけましたか？

では，鉛筆を返して下さい。

鉛筆を回収してもらう。

次に紹介する本は***「木をかこう」***です。

イタリアのブルーノ・ムナーリという人が描いた木の絵がたくさん載っています。背が高かったり低かったり，上に伸びていたり横に枝を広げていたり，様々な木の形が書いてあるのですが，これらはすべて，同じ決まりに従って書かれているのだそうです。

この決まりは…

ホワイトボードに説明しながら書いていく。

太い幹があって，それが二つに分かれ，さらにそれが二つ，さらにさらに二つに分かれ，また二つに分かれ…と，とてもわかりやすい決まりです。

この本を読んだ後に，公園に行って木をよく観察しながら，もう一度木の絵を書いてみてください。

さっき書いた木とはまた違ったものがかけると思いますよ。

それから，この本を書いたムナーリさんは最後にこう書いています。

最後のページを読む。

さて，公園に行って木を観察するとします。枝が四方八方に伸びている様子がよくわかると思いますが，土に隠れている部分はどうなっているのでしょうか。…そう,根が土の中に伸びているのですね。その根がしっかりと土をつかんでいるので，ちょっとやそっとの風が吹いても，木は，揺れはしますがびくともしません。けれども，自分の根を一本ずつひきぬきながら動き出して，とうとう歩きだした木のおはなしを紹介します。***「あるきだした小さな木」***です。

2ページを見せながら

深い深い森の中に，ちびっこの木が生えていました。隣にはパパの木とママの木が生えていて，とても幸せでした。ある日，人間の男の子が一人，森に迷い込んで来ました。男の子は迷い疲れて，ちびっこの木の下で眠ってしまいました。そこへ男の子の家族が捜しに来て，男の子は無事帰っていきました。

ちびっこの木はその男の子や家族を見て，「あの人たちと暮らしたいなあ」と思うようになりました。

それから，毎晩のように，ちびっこの木は地面から抜け出ようと，ものすごく体をゆすりました。

ある月のきれいな夜に，とうとうちびっこの木は地面から抜け出して，歩くことだって，走ることだってできるようになりました。こんな風に…

16，17ページを見せながら

さあ，ちびっこの木の冒険が始まります。ちびっこの木は無事に男の子の家に着くことができるのでしょうか？続きはぜひ読んでみてください。

お話の主人公は「小さな木」でしたが次は「大きくなる木」という詩を読みます。

28.29ページを読む。

それでは，大きくなる木の手品をお見せします。

これは，魔法の木の種です。この種に魔法の水をやると，どんどん伸びていって，大きな木になります。

この本は***「ことばのくにのマジックショー」***という題名です。

詩が書いてあって，その次に手品のやり方が書いてあります。手品は身近なものを使って，何度か練習すれば簡単にできるものばかりなので，みなさんも挑戦して，お友達やおうちの人をびっくりさせてみてください。

手品の道具は身近にあるものばかりですが，こんなものを持っている人はきっといないと思いますよ。子狐を助けて男が母ギツネからもらった,頭巾はこんな赤い頭巾でした。

赤い布をかぶって見せる。

男がもらった頭巾は，鳥や木の言葉がわかる不思議な頭巾でした。

それでは，最後に***「ききみみずきん」***の絵本を読み聞かせします。

「ききみみずきん」のよみきかせ

今日紹介した本の題名をもう一度言います。

***｢数え方と単位の本④　自然と植物｣***この本はシリーズがあります。

***「いっぽんの鉛筆のむこうに」***

***「木をかこう」***

***「あるきだした小さな木」***この本はシリーズがあります。

***「ことばのくにのマジックショー」***

***「ききみみずきん」***

今日紹介した本やシリーズの本は,ここに用意してありますので，手に取ってみてください。

ブックトラックを見せる。

もちろん，今日借りることもできます。

借りていきたい本があったら，貸し出しカウンターに持って行って，借りてください。

それでは，夏休み特別おはなし会を終わります。

おわり